



新・動物記について

シリーズ編集

黒田未壽（滋賀県立大学名誉教授）

西江仁徳（日本学術振興会特別研究員 RPD・京都大学）

「あの動物のことを知りたい！」研究者たちはこの一心で動物の生きる現場に向かい、その生態や社会の謎を解く決定的瞬間をとらえようとしています。目指す動物に出会うまでの忍耐、ありのままの行動を観察するための工夫、断片的な証拠を繋ぎ合わせる推理——。

「新・動物記」シリーズは、動物に魅せられた若者たちがその姿を追い求め、彼らの世界に少しでも近づこうとする過程を描いたドキュメンタリーです。動物や自然を愛好するすべての読者にお届けします。

● 内容見本（第1巻より）●



研究対象紹介

研究対象動物の基本的な情報や形態、生態を、ポイントを押さえて親しみやすく紹介します。フィールドの風景や生き物たち、研究現場の臨場感が伝わる写真も満載です。

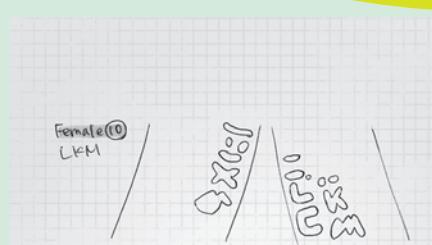
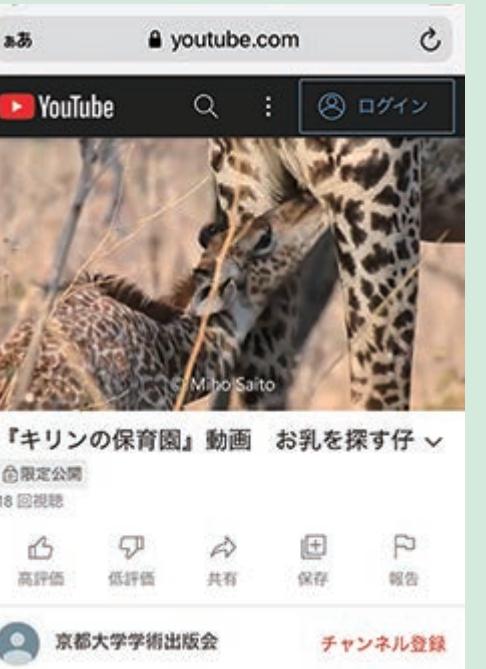
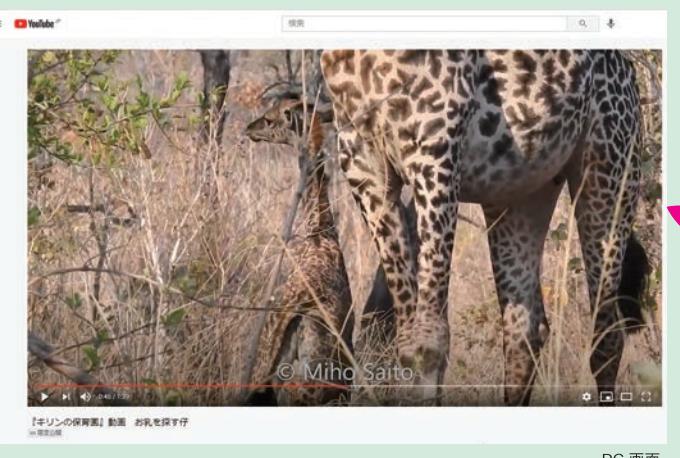


図3 成熟メス LKM の首の両側の模様のスケッチと写真
個体識別に利用している彼女の模様の特徴として、左側で囲んでいる首の左側面（下図右）のアフバペットの LKM ような模様、首の右側面（下図左）の、にこちゃんマークがある。上図は実際に私がスケッチした彼女の模様。首の模様すべてを書くことはせず、特徴のある部分だけを押さえている。

本文図版



QRコードからウェブ上のオリジナル動画にアクセスし、お手元のスマートフォンやタブレット端末で手軽に再生できます。映像と音声を通じて、著者とともにフィールドにいるかのような感覚を味わうことができます。



本文見本

1. キリンの保育園

—タンザニアでみつめた彼らの仔育て

齋藤 美保 著 京都市動物園 生き物・学び・研究センター研究員

2021年6月

小さな仔をもつキリンのお母さんたちは、集まって「保育園」をつくり、共に仔育てをする。見守り役の分担、ママ友関係、授乳をめぐる攻防……ミオンボ林の片隅のある保育園でみつめた、キリンの親仔たちの物語。

2200円(税別) ISBN 978-4-8140-0333-4

2. 武器を持たないチョウの戦い方

—ライバルの見えない世界で

竹内 剛 著 大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科研究員

2021年6月

チョウが互いに相手の周りを飛び回る叩巴飛翔は、縄張り争いの一環と説明される。しかし鋭い牙も爪も持たないチョウがただ飛び回ることが、なぜ「闘争」になるのだろうか。試行錯誤の末たどり着いた衝撃の結論。

2200円(税別) ISBN 978-4-8140-0337-2

3. 隣のボノボ

—集団どうしが出会うとき

坂巻 哲也 著 アントワープ動物園基金 ロマコプロジェクトコンサルタント

2021年8月

集団どうしの出会いを避けるチンパンジーと、異なる集団が交わり一緒にときを楽しむボノボ。最もヒトに近い動物であるこの2種は、なぜこれほどに対照的な社会を進化させたのか。コンゴの森で綴られた瑞々しい動物記。

ISBN 978-4-8140-0336-5

4. 夜のイチジクの木の上で

—フルーツ好きの食肉類シベット

中林 雅 著 広島大学大学院 先進理工系科学研究科助教

2021年10月

暗闇の中に光る目。食肉目なのに果物好き。地面を闊歩するが樹上60メートルで糞もする。不思議な動物シベットに魅せられた著者による8年間に及ぶ追跡の実録。シベットが成し遂げた「中途半端」な適応の強みとは。

ISBN 978-4-8140-0356-3

5. 力ニの歌を聴け

—ハクセンシオマネキの恋の駆け引き

竹下 文雄 著 北九州市立自然史・歴史博物館 學芸員

2021年12月

暗い穴の奥でかすかに響く低い音。ハクセンシオマネキのオスがメスを巣穴に誘う求愛音だ。しかし、その効果のほども、音の出し方すらもわからない。不思議な歌に導かれてカニたちの干潟に辿り着いた研究者が見た、炎天下の恋模様。

ISBN 978-4-8140-0356-3

6. サバンナにそびえる「土の塔」

—シロアリ塚からはじまる小さな森の話

山科 千里 著 筑波大学生命環境系 特任助教

2022年2月

地面からによきによきと突き出した、土の塔のようなシロアリ塚。土の塔は長い年月をかけて形を変え、豊かな植生を育み、多くの野生動物たちをも支える。アフリカのサバンナにそびえるシロアリ塚がつなぐ、森と動物と人との物語。

★本シリーズは2022年度以降も継続刊行

(予告タイトルは変更されることがあります)